

第4章 ニーズ調査結果と計画策定に向けた課題

第二期計画（令和2～6年度）を策定するに当たり、子育て支援に関する事業の利用状況や今後の利用希望などを把握するため、ニーズ調査を実施しました。

なお、ニーズ調査の実施に際し、国が示す必須の調査項目の他に大竹市独自の調査項目を加えて、大竹市の子育て家庭の意向をより把握できるように工夫しました。

●ニーズ調査を実施する趣旨

子ども・子育て支援法において、各市町村の人口構造などの地域特性、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業などの利用状況や利用希望などを踏まえて計画を作成する必要があると定められています。

また、計画の作成にあたり、現在の利用状況や今後の利用意向を把握するため、ニーズ調査を実施し、そこで得られたデータから教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業などの量の見込みを推計し、具体的な目標設定を行うことが義務づけられています。

1. 調査概要

調査対象	就学前児童がいる世帯	小学生児童がいる世帯
抽出方法	平成31年1月28日時点の住民基本台帳から抽出	
配布数	800	800
有効回収数	431	402
回収率	53.9%	50.3%
配布方法	郵送による配布・回収	
調査期間	平成31年2月	

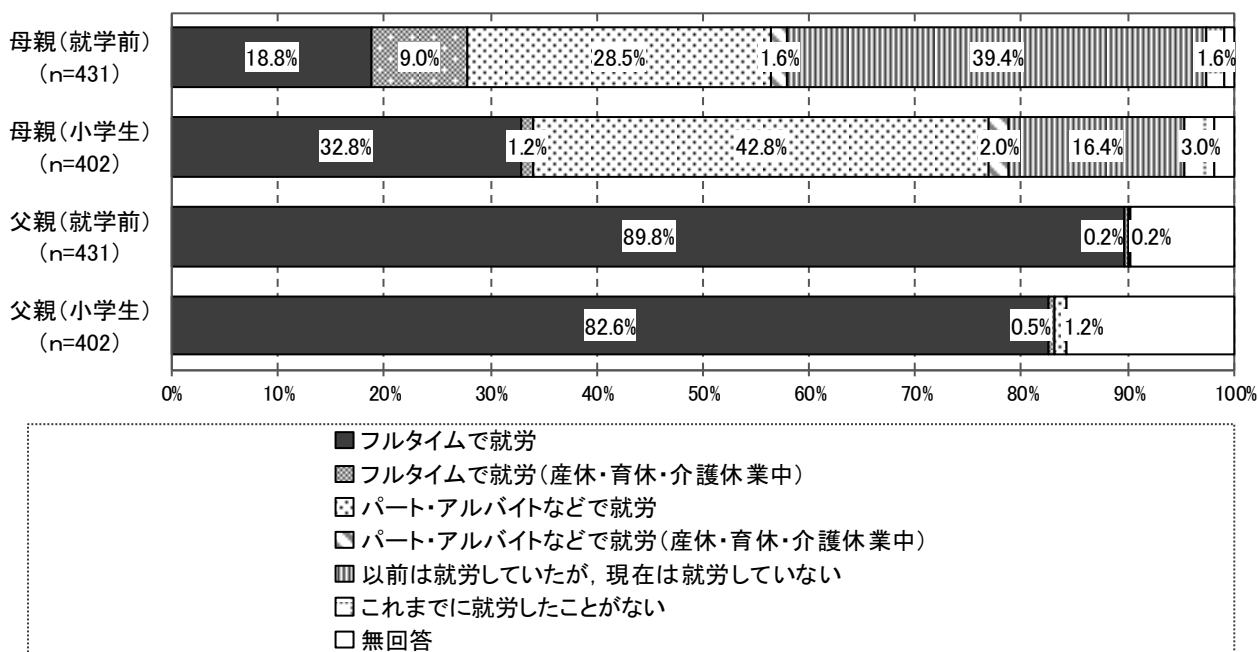
※次ページ以降のグラフについて、【MA】と記載のあるものは複数回答が可能な設問を表します。

2. 結果概要

(1) 母親・父親の現在の就労状況（就学前児童・小学生児童）

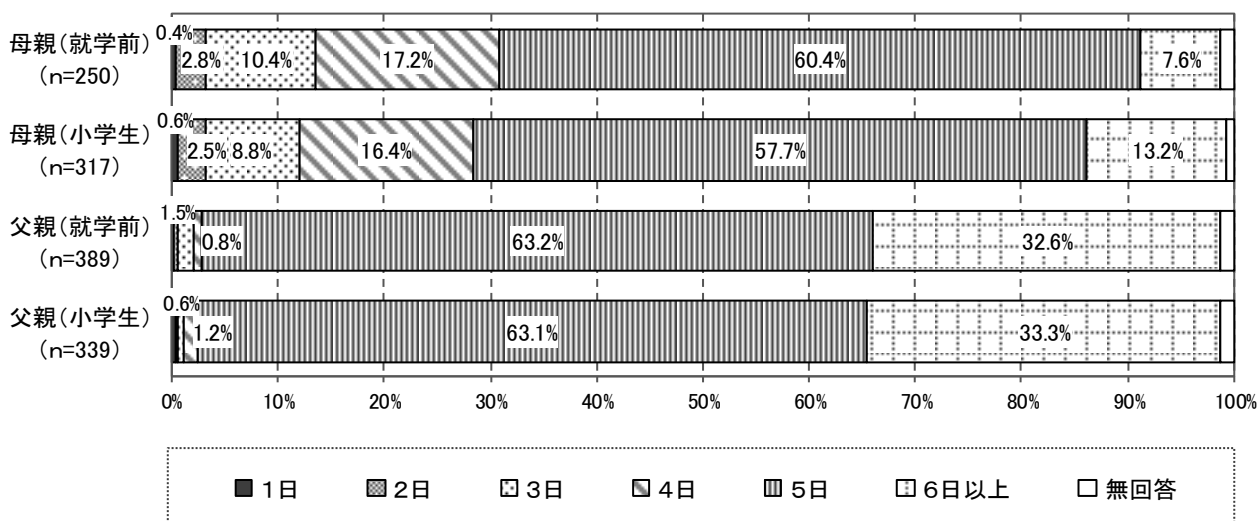
就学前児童がいる母親では“就労している”（フルタイムとパート・アルバイトの合計）が57.9%、小学生児童がいる母親では78.8%となっています。父親では就学前児童のいる世帯・小学生児童のいる世帯に関係なく、無回答を除くほとんどが「フルタイムで就労」となっています。

《母親・父親の現在の就労状況》



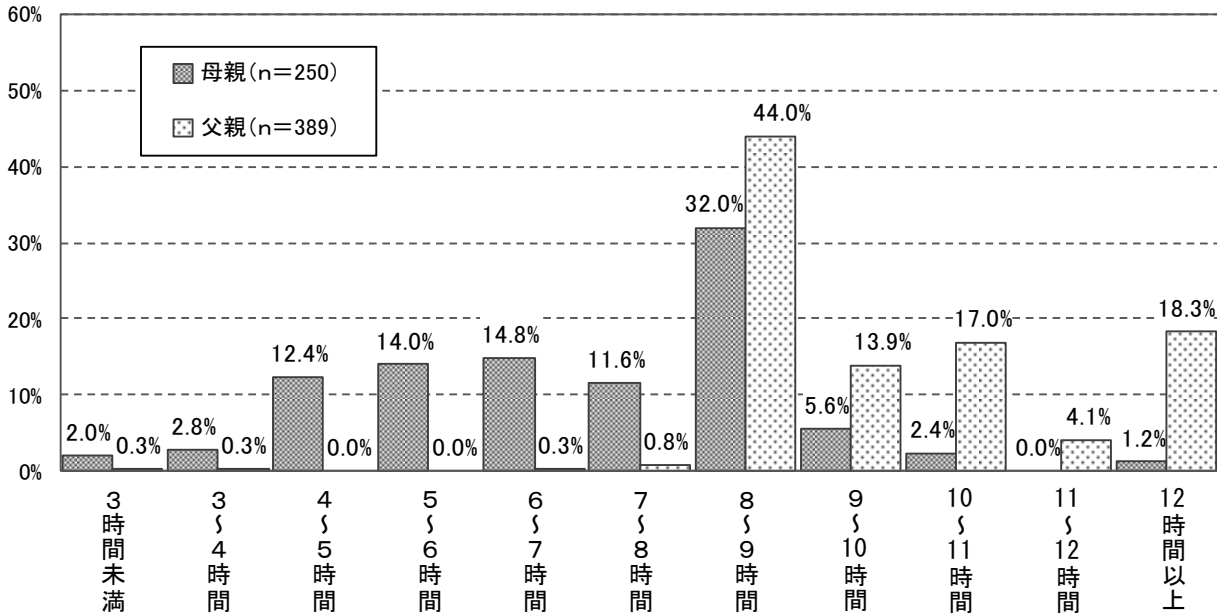
“就労している”世帯の就労日数をみると、就学前児童・小学生児童を問わず、母親・父親ともに「週5日」の割合が最も高くなっています。

《“就労している”母親・父親の就労日数》

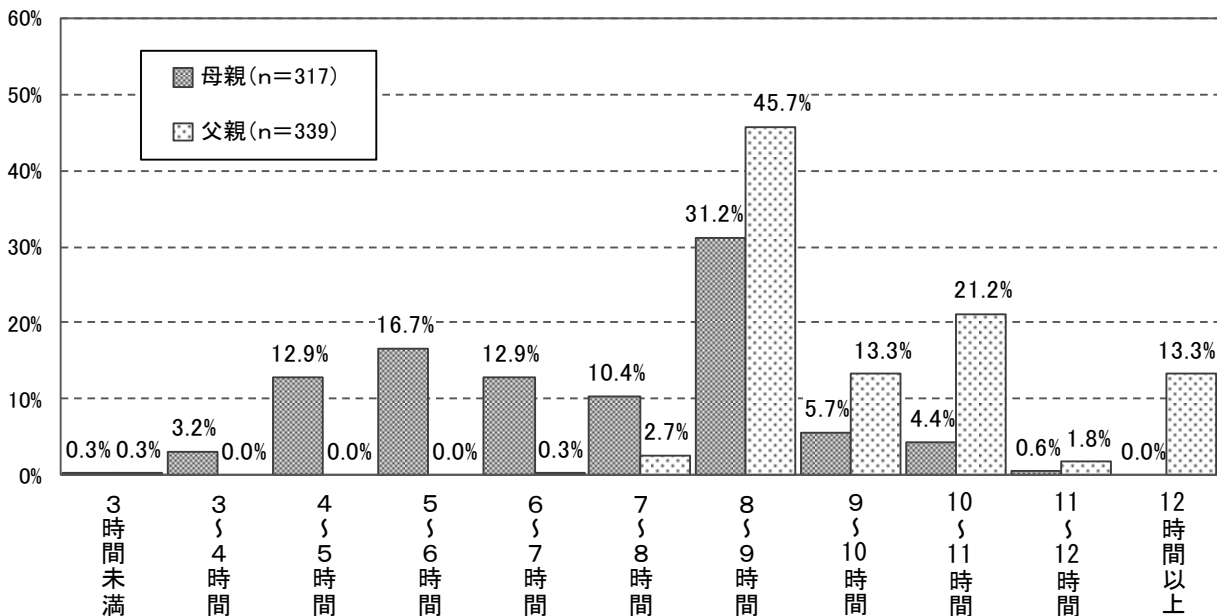


“就労している”世帯の就労時間をみると、就学前児童・小学生児童を問わず、母親・父親ともに「8～9時間」の割合が最も高くなっています。

《“就労している”母親・父親の就労時間（就学前児童）》



《“就労している”母親・父親の就労時間（小学生児童）》

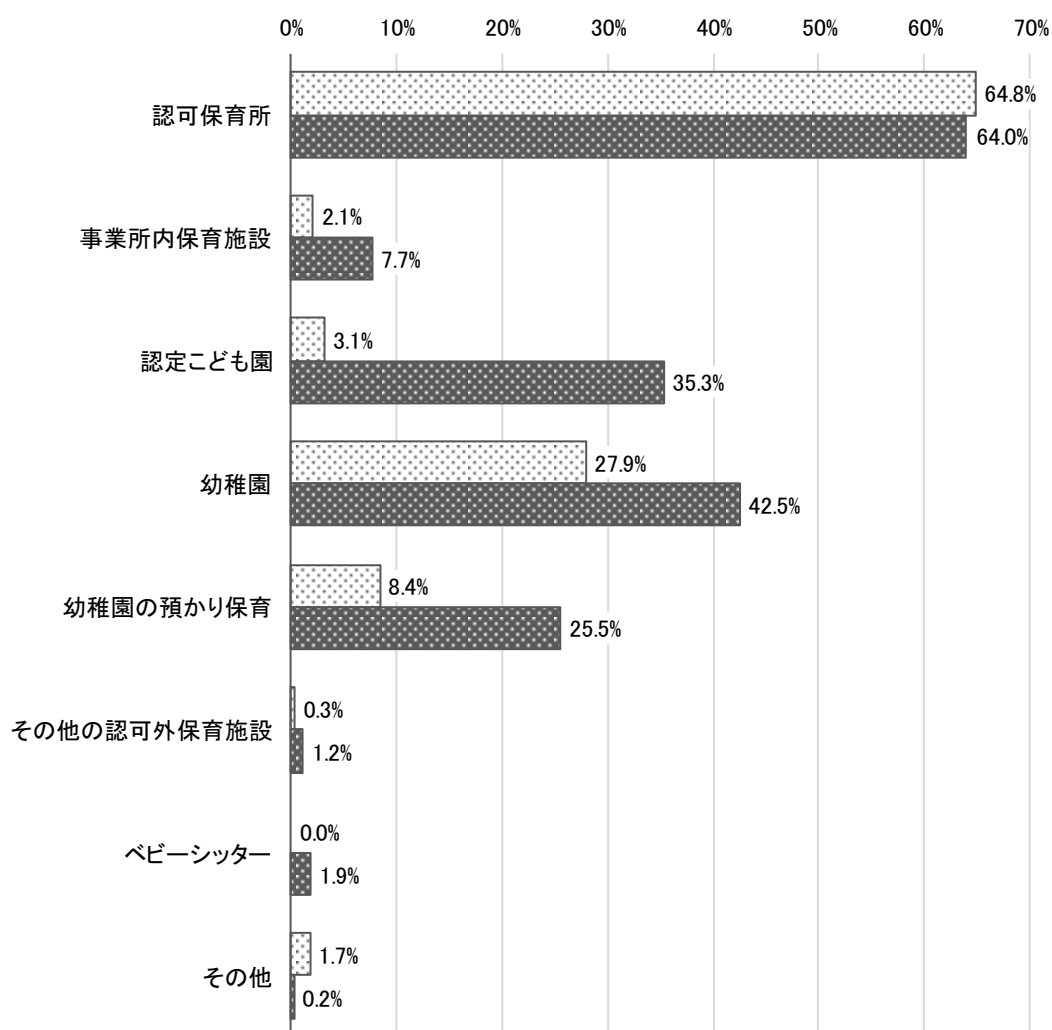


(2) 平日の「定期的な教育・保育事業」※の現在の利用と今後の利用意向（就学前児童）

平日の「定期的な教育・保育事業」について現在の利用状況を見ると、「認可保育所」が最も多く、次いで「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」「認定こども園」となっています。

また、「幼児教育・保育の無償化」（令和元年 10 月開始）が行われた場合の今後の利用意向をみると、「認可保育所」の利用希望はほとんど変わりませんが、「認定こども園」・「幼稚園」・「幼稚園の預かり保育」の利用希望が大きく増加しています。

《平日の「定期的な教育・保育事業」の現在の利用と今後の利用意向【MA】》



☐ 「現在利用」(n=287)

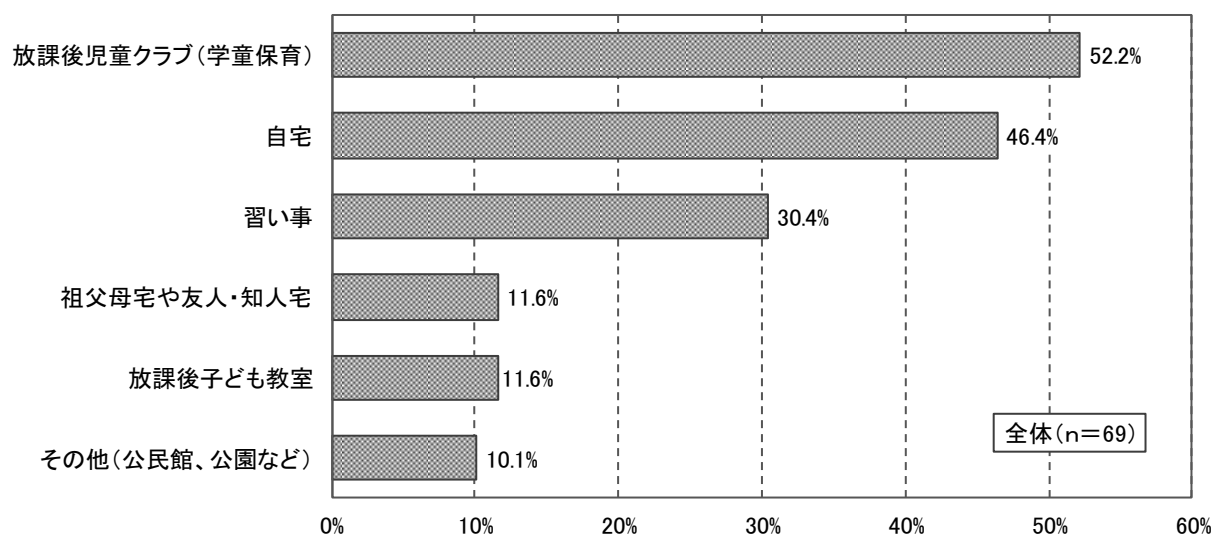
■ 「無償化になったら利用」(n=431)

※ 「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している教育・保育事業を指します。具体的には、保育所（園）、幼稚園、認定こども園などの事業のことです。

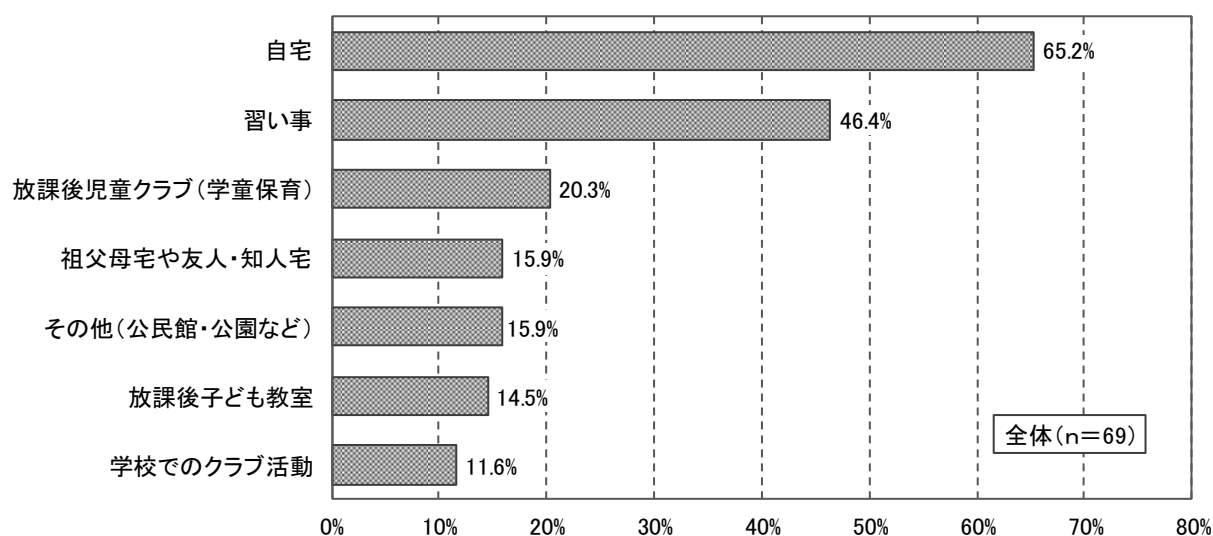
(3) 小学校就学後の放課後の過ごし方（就学前児童）

調査時点で5歳児を持つ保護者に対し、放課後、小学校低学年のうちはどこで過ごさせたいかを尋ねたところ、「放課後児童クラブ（学童保育）」が52.2%と最も高く、次いで、「自宅」（46.4%）、「習い事」（30.4%）の順となっています。小学校高学年になると、「自宅」が65.2%と最も高く、次いで、「習い事」（46.4%）、「放課後児童クラブ（学童保育）」（20.3%）の順となっています。

《小学校低学年のうちはどこで過ごさせたいか【MA】》



《小学校高学年になったらどこで過ごさせたいか【MA】》

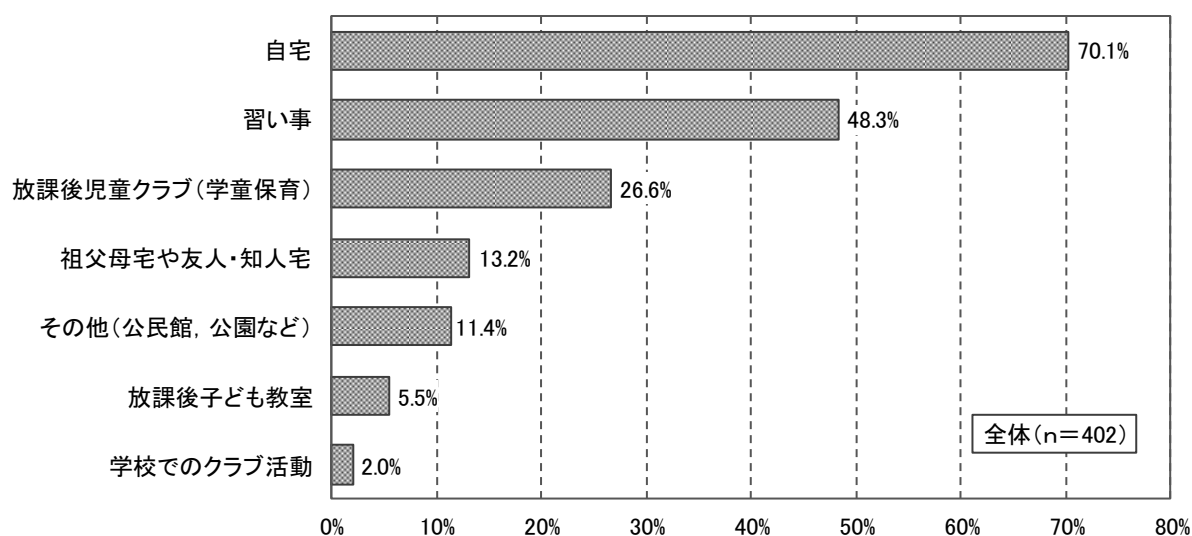


(4) 放課後の過ごし方（小学生児童）

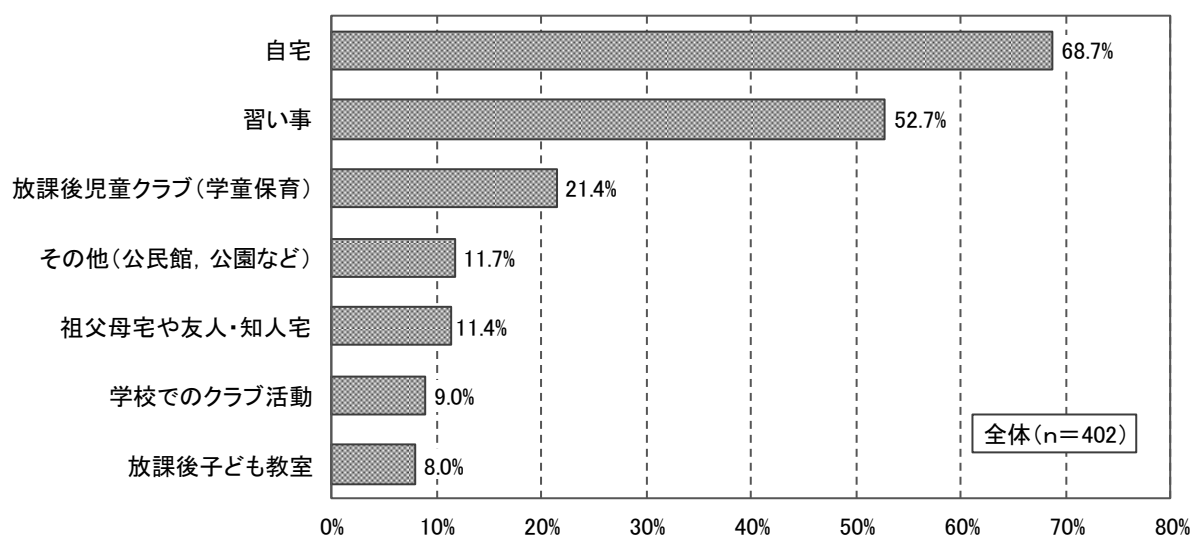
現在、小学生のお子さんが放課後、どこで過ごしているかを尋ねたところ、「自宅」が70.1%と最も高く、次いで、「習い事」(48.3%)、「放課後児童クラブ(学童保育)」(26.6%)の順となっています。

また、今後、放課後をどこで過ごさせたいかを尋ねたところ、「自宅」が68.7%と最も高く、次いで、「習い事」(52.7%)、「放課後児童クラブ(学童保育)」(21.4%)の順となっています。

《現在、放課後をどのような場所で過ごしているか。【MA】》



《今後、放課後をどのような場所で過ごさせたいか。【MA】》

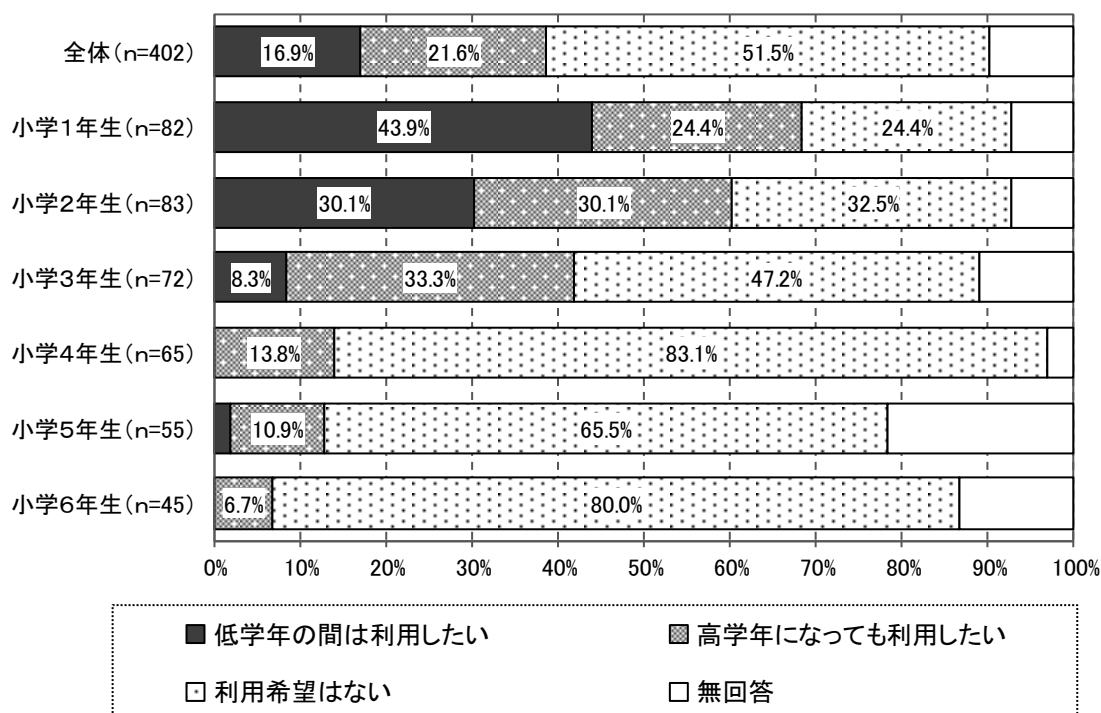


(5) 長期休暇期間中の「放課後児童クラブ」の利用希望（小学生児童）

夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望を尋ねたところ、「低学年の間は利用したい」と「高学年になっても利用したい」を合わせた「利用したい」の割合は全体で38.5%となっています。

学年別にみると、小学1年生では“利用したい”の割合が68.3%となっており、低学年ほど“利用したい”の割合は高くなっています。

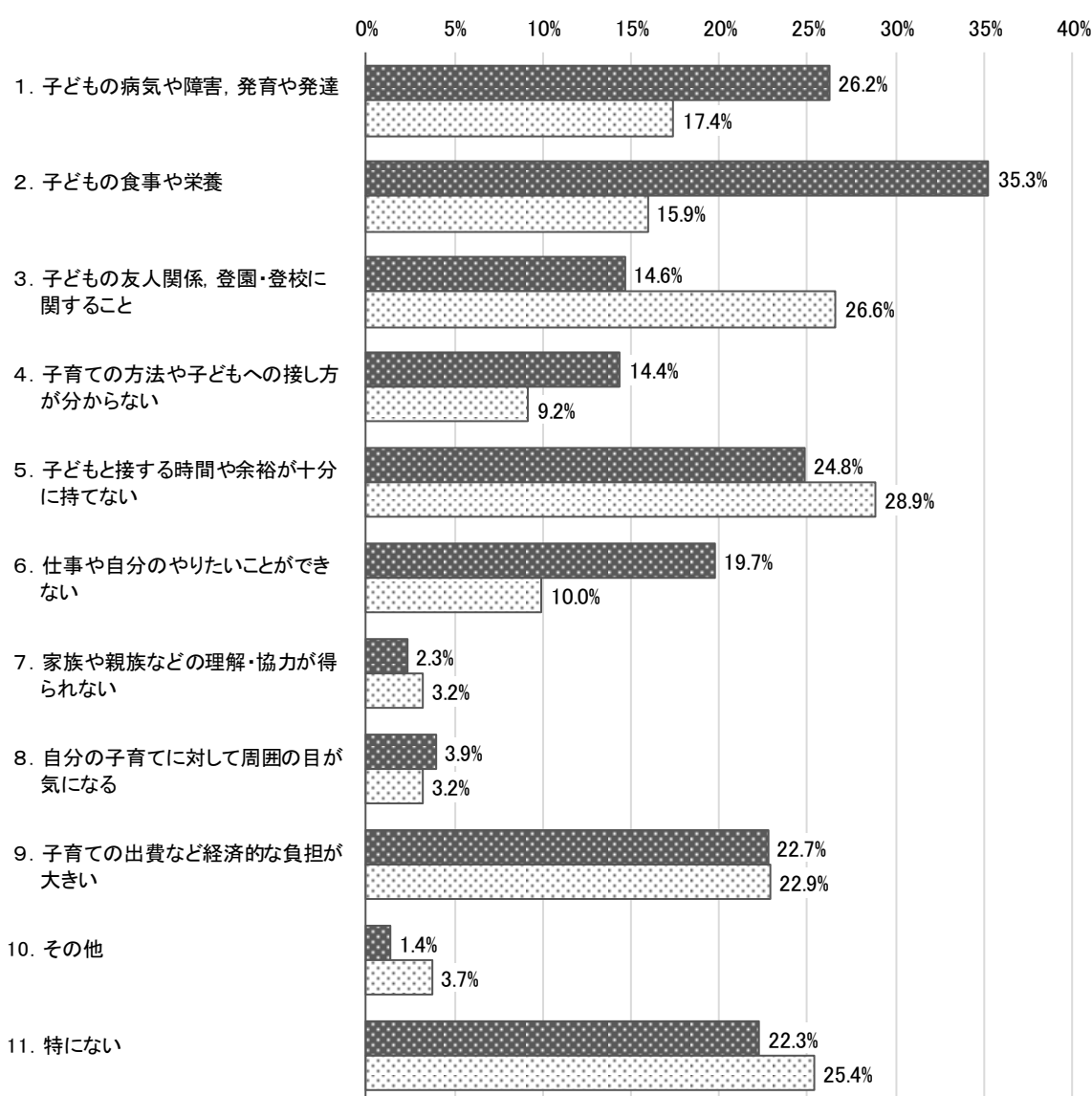
《夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の「放課後児童クラブ」の利用希望》



(6) 子育てについて、日頃悩んでいることや気になること（就学前児童・小学生児童）

就学前児童のいる世帯では、小学生児童のいる世帯と比べて「子どもの食事や栄養」、「子どもの病気や障害、発育や発達」、「仕事や自分のやりたいことができない」、「子育ての方法や子どもへの接し方が分からない」の割合が高くなっています。小学生児童のいる世帯では、就学前児童のいる世帯と比べて「子どもの友人関係、登園・登校」の割合が高くなっています。また、「子どもと接する時間や余裕が十分に持てない」、「子育ての出費など経済的な負担が大きい」は、就学前児童のいる世帯・小学生児童のいる世帯ともに高い割合となっています。

《子育てについて、日頃悩んでいることや気になること【MA】》



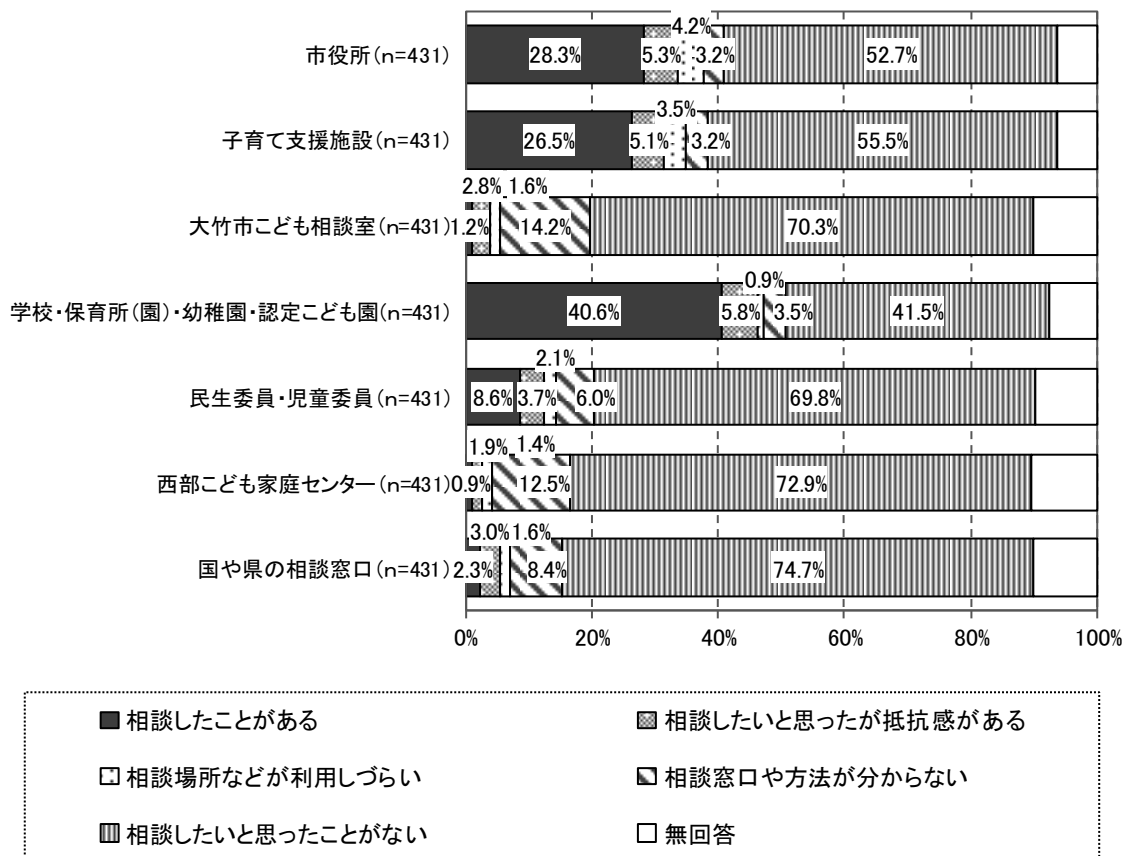
■「就学前」(n=431)

□「小学生」(n=402)

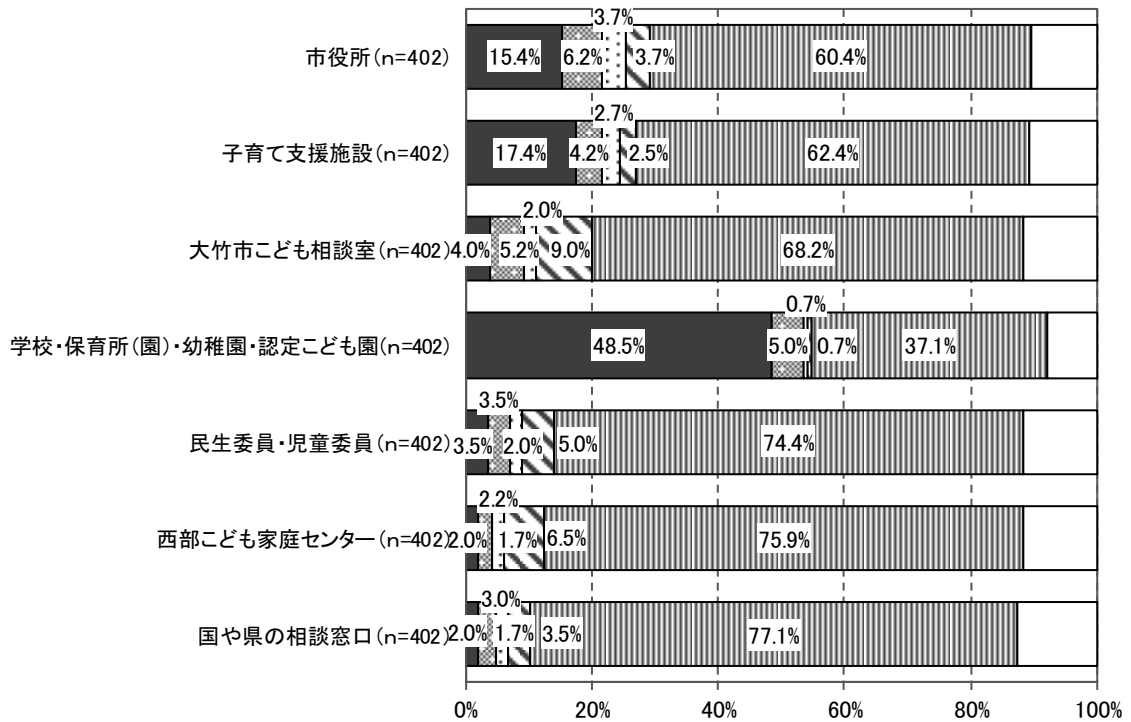
(7) 子育ての悩みなどの相談先（就学前児童・小学生児童）

就学前児童のいる世帯・小学生児童のいる世帯ともに、「市役所」、「子育て支援施設」、「学校・保育所（園）・幼稚園・認定こども園」の割合が高くなっています。そのほかの相談先（人）については、「相談したことがある」の割合がかなり低くなっています。

《子育ての悩みなどの相談先【MA】（就学前児童）》



《子育ての悩みなどの相談先【MA】（小学生児童）》

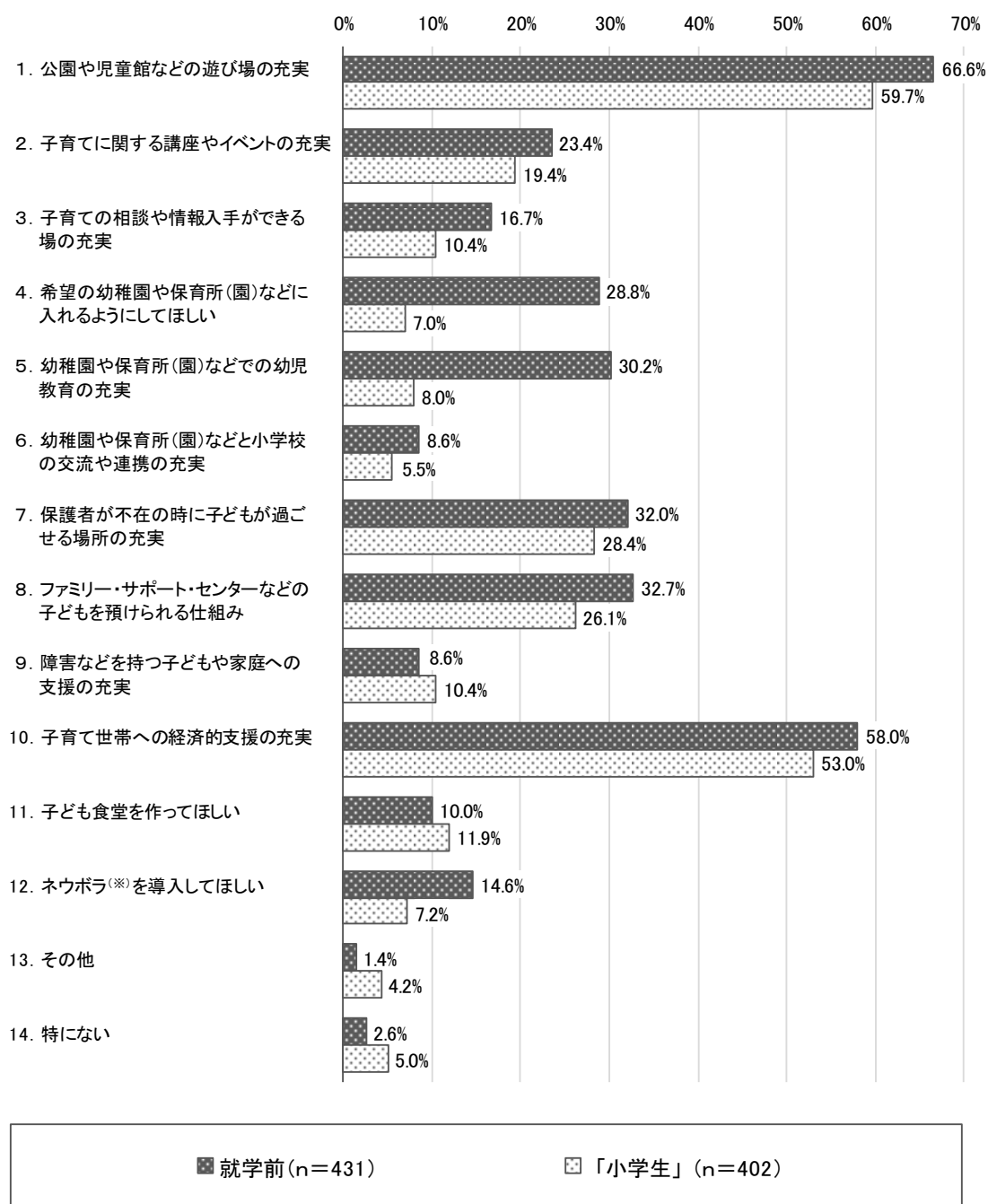


- 相談したことがある
- ▨ 相談したいと思ったが抵抗感がある
- 相談場所などが利用しづらい
- ▤ 相談窓口や方法が分からない
- ▩ 相談したいと思ったことがない
- 無回答

(8) どのような子育て支援を充実してほしいか（就学前児童・小学生児童）

就学前児童のいる世帯・小学生児童のいる世帯ともに、「公園や児童館などの遊び場の充実」、「子育て世帯への経済的支援の充実」の割合が高くなっています。また、就学前児童のいる世帯では小学生児童のいる世帯と比べて、「希望の幼稚園や保育所（園）などに入れるようにしてほしい」、「幼稚園や保育所（園）などでの幼児教育の充実」の割合が高くなっています。

《どのような子育て支援を充実してほしいか。【MA】》

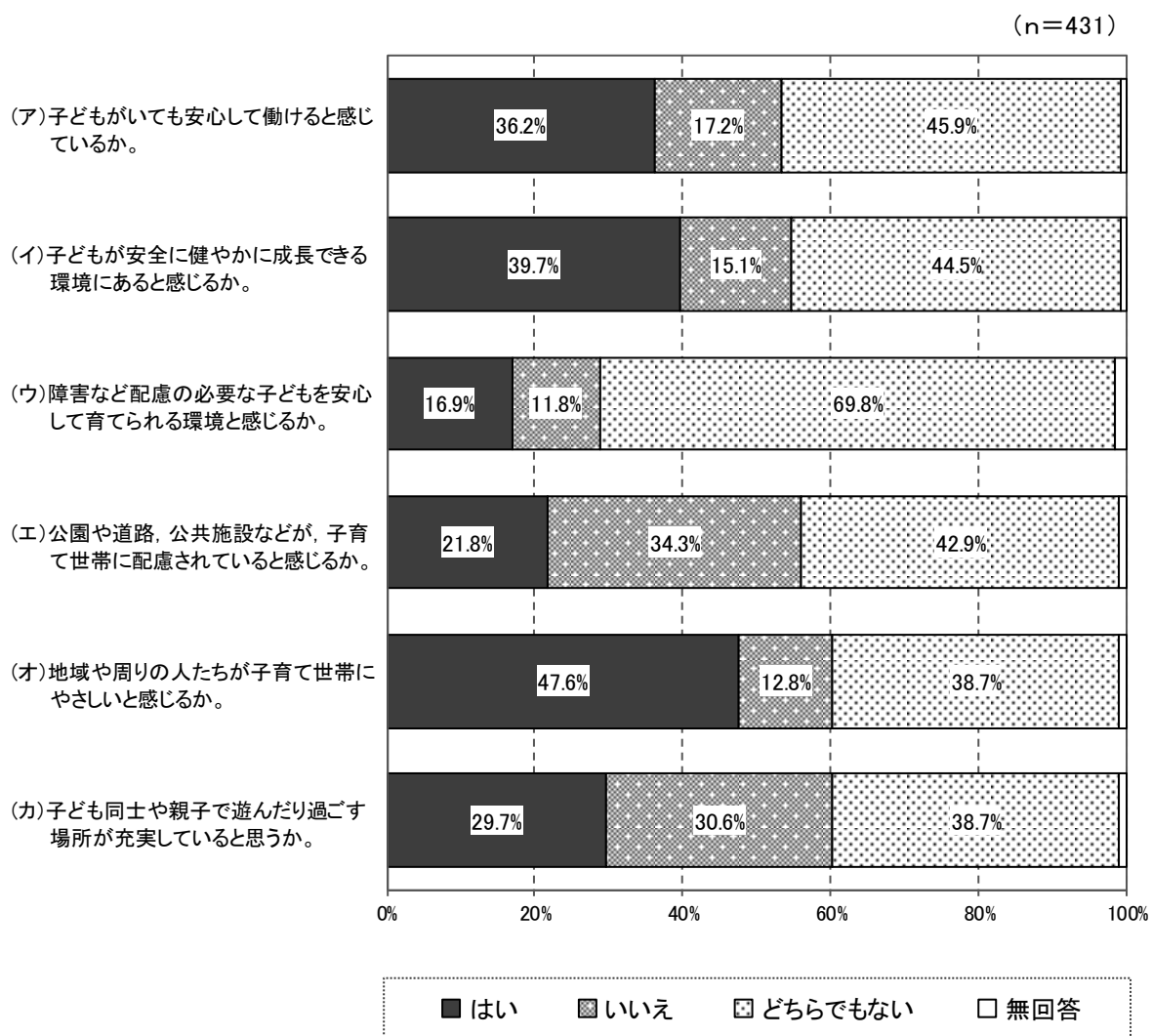


(※)ネウボラ … フィンランドを発祥とする、妊娠期から就学前の子どものいる全ての家庭に対し、母子保健や子育て支援の専門職員による切れ目のない支援を行う仕組みのことです。母子保健法上の正式名称は「子育て世代包括支援センター」といいます。

(9) 大竹市の子育て支援や生活環境に関する設問（就学前児童・小学生児童）

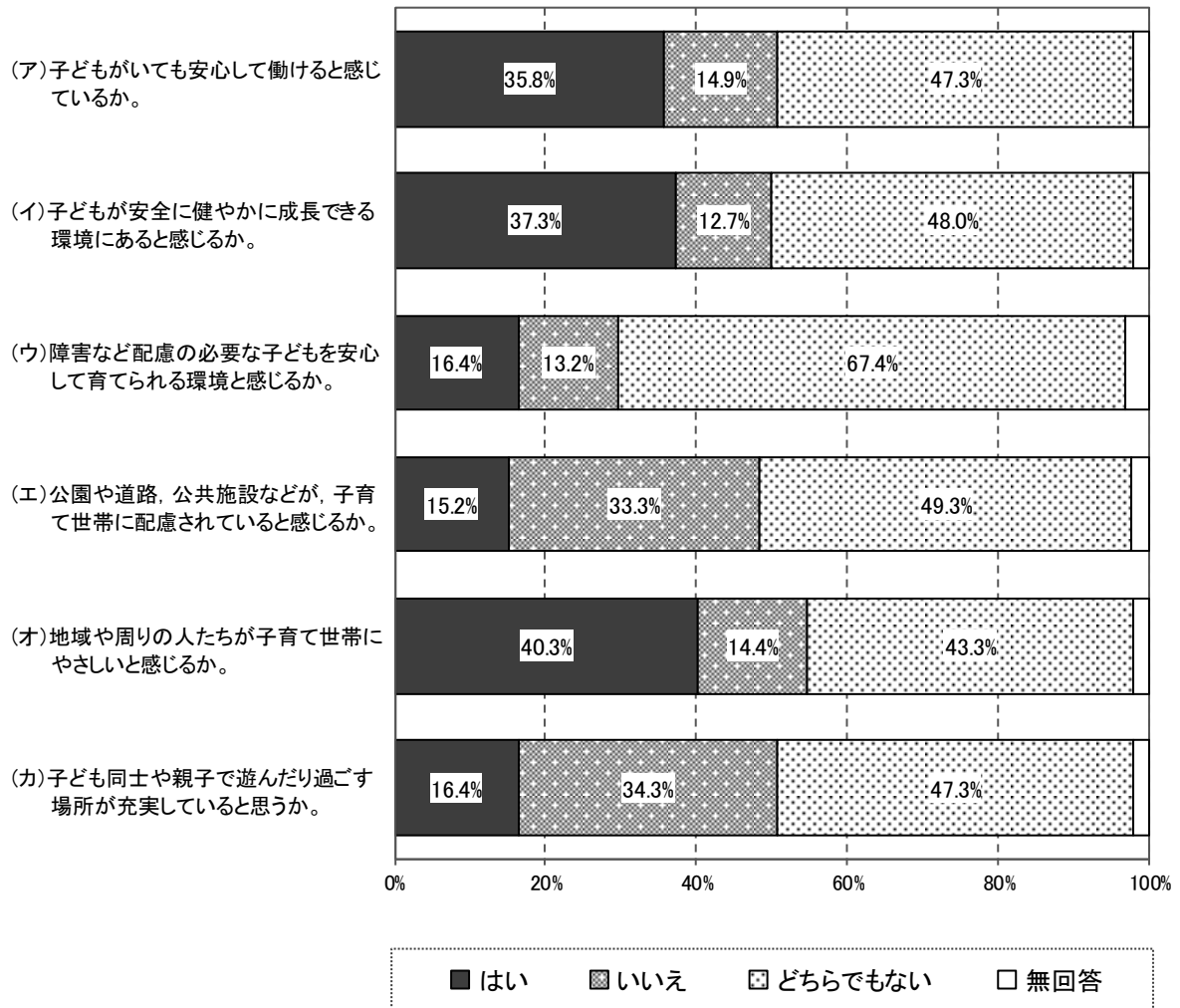
大竹市の子育て支援や生活環境についてどのように感じているかを尋ねたところ、就学前児童のいる世帯・小学生児童のいる世帯ともに、「地域や周りの人たちが子育て世帯にやさしい」は「はい」が4割以上と高くなっている一方で、「公園や道路、公共施設などが、子育て世帯に配慮されている」「子ども同士や親子で遊んだり過ごす場所が充実している」は、就学前児童のいる世帯・小学生児童のいる世帯ともに、「はい」より「いいえ」の割合が高くなっています。

《大竹市の子育て支援や生活環境をどう感じているか（就学前児童）》



《大竹市の子育て支援や生活環境をどう感じているか（小学生児童）》

(n=402)



3. ニーズ調査結果からみられる傾向と課題

母親・父親の就労状況について

就学前児童の母親の就業率は6割弱、小学生児童の母親の就業率が8割弱となっています。また、勤務日数や勤務時間の状況から父親が長時間労働の状況にあることが見受けられます。

就学前児童の「定期的な教育・保育事業」の利用について

大竹市内には保育所（園）が6か所（公立4，私立2），認定こども園が1か所（私立1），幼稚園が1か所（私立1）ありますが，幼児教育・保育の無償化が実施された場合の今後の利用意向において，幼稚園の預かり保育や認定こども園の利用希望が大きく増加しています。

小学生の放課後の過ごし方について

小学生児童がいる世帯の現状をみると，「自宅」の割合が最も高く，次いで，「習い事」，「放課後児童クラブ（学童保育）」の順となっています。一方，就学前児童がいる世帯の今後の意向をみると，低学年の間は「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が最も高くなっています。

長期休暇期間中の「放課後児童クラブ」の利用希望について

小学生児童がいる世帯の希望をみると，低学年ほど「利用したい」の割合が高く，小学1年生では6割を超えています。

子育て世帯の多様なニーズへの対応が求められます。

現状分析（第2章）における女性の就業率の上昇やM字カーブを描いていることも踏まえ，就学前児童に対しては，教育・保育施設の整備や一時預かり事業の充実など，小学生児童に対しては，放課後児童クラブの充実などにより，子育て中の親が安心して勤務できる環境づくりが必要です。

また，幼児教育・保育の無償化（※令和元年10月から実施済み）に伴い，幼稚園・認定こども園など，就労状況に関わらず子どもを預けることができる施設の利用意向が高くなっていることを踏まえ，教育・保育に対する多様なニーズへの対応が求められます。

子育てについて、日頃悩んでいることや気になること

就学前児童のいる世帯では小学生児童のいる世帯と比べて、「子どもの食事や栄養」、「子どもの病気や障害、発育や発達」、「仕事や自分のやりたいことができない」、「子育ての方法や子どもへの接し方が分からない」の割合が高くなっています。

小学生児童のいる世帯では就学前児童のいる世帯と比べて、「子どもの友人関係、登園・登校」の割合が高くなっています。

また、就学前児童のいる世帯・小学生児童のいる世帯ともに、「子どもと接する時間や余裕が十分に持てない」の割合が高くなっています。

子どもの育ちを支えるための子育て支援の体制づくりが求められています。

親子の交流の機会の提供や、乳幼児期からの子育て方法や子どもへの接し方への支援・指導・啓発など、子どもの健やかな成長を守るため、子にゆとりと愛情を持って接することができるような関わり方が求められています。そのためには、様々な環境や状態にある子どもとその保護者、妊婦などに対する切れ目のない相談・支援体制を確立する必要があります。

また、行政だけでなく、学校や地域、関係機関・団体、企業などが連携・協力し、市全体で子どもと子育て家庭を見守り、関わり、支援していくための環境づくりが重要です。

どのような子育て支援を充実してほしいか

就学前児童・小学生児童ともに、「公園や児童館などの遊び場の充実」、「子育て世帯への経済的支援の充実」の割合が高くなっています。また、就学前児童では小学生児童と比べて、「希望の幼稚園や保育所（園）などに入れるようにしてほしい」、「幼稚園や保育所（園）などでの幼児教育の充実」の割合が高くなっています。

大竹市に求められる子育て支援や生活環境の改善の視点

「公園や道路、公共施設などが、子育て世帯に配慮されている」・「子ども同士や親子で遊んだり過ごす場所が充実している」について、「はい」より「いいえ」の割合が高くなっています。

子育て世帯が地域の中で安心して生活できる環境づくりが求められています。

子育て家庭のニーズを踏まえて、親と子、親同士・子同士が遊びを通じて交流できる場の整備や、子育て世帯を支えるための経済的支援、教育・保育の量と質の確保など、総合的な子育て支援の充実を図っていく必要があります。

また、子どもと子育て家庭への配慮が行き届いた安全・安心な環境づくりを進めることにより、「大竹市で子育てをしておよかった」と思えるまちづくりを行っていくことが重要です。